2022年度　はつしば学園幼稚園　学校評価

１．本園の教育目標

学園の理念である「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」に基づき、“遊び・発見・学びの根っこを育てよう”に取組みます。

教育方針

・日常生活の正しい習慣を身につける。
・身近な集団生活に適応できる規律と勇気を持たせます。
・まわりの自然や社会に関心を持たせる。
・思った事を素直に話し、人の話しをよく聞きわけるようにする。
・自由な表現活動を重視し創造性を豊かにする。

２．本年度、重点的に取り組む目標・計画

・正課授業の安定化を図ると共に、課外教室を幅広く周知し、多様な経験を通して『学びの根っこ』を育てていきます。
・「しつけの三ケ条」
“朝のあいさつが出来るように”
“名前を呼ばれたら「ハイ」と返事のできるように”
“履物を自分できっちりそろえるように”
・立腰や茶道を通して日常生活の基本的な日常習慣の育成に役立てます。
・茶道は引続き裏千家淡交会より講師を招いての指導とさかい利晶の杜で茶の湯体験を通して、子ども達自身が自分で心と体を整える力をつけさせます。
・国際コース・プレ国際コースにおいては、英語を母国語のように聞き、理解できるよう開発された教材(GrapeSEED、Little SEED)を使い、ネイティブ講師のもと楽しく続けることで英語の言語領域を形成していきます。
・満３歳児クラスでは、保護者のニーズに応える教育を実施していきます。
・はつしば学園小学校との連携をさらに強化し、小学校の先生による知育教室、交流会等、具体的な取り組みをすすめていきます。
・スクールカウンセリングを引き続き実施し、保護者に子育ての悩みを相談する場を提供し、幼稚園と家庭で園児をサポートする体制を構築します。
・総合学園として、学園内交流を行いはつしば学園幼稚園しか体験できない園児の「楽しい」を実現していきます。

３．評価項目の達成及び取組状況

評　価　項　目	取　組　状　況
幼稚園行事は、楽しく充実している。	・新型コロナウィルス感染症の影響で、休園また保育上いろいろな制約があり例年通りの保育・行事を行うことができていない。そんなコロナ禍の中でも春・秋の遠足、わくわくデー、運動会、発表会などの行事を行い様々な活動で多くの経験・体験が出来て良かった。保護者参観についても制約はあったが機会を設けることにより、子どもの成長が見られ幼児期の発達段階を知る良い機会となっている。 ・集団生活の中で年下の園児は年長児への憧れを持ちながら、協調性や自主性を培うことができている。
スイミングプール・GrapeSEED・体育指導・イングリッシュタイム・リトミック・茶道・朗読など保育カリキュラムに満足している。	・小学校ではなかなか体験できないことが取り入れられており、様々な分野に興味を持つきっかけとなっている。 ・スイミングが通年あることで良い教育効果をもたらしている。
配布文書やホームページ・学級通信により園生活の様子がわかる	・ホームページのはつしばっこだよりやインスタグラムは、定期的に投稿をしているが、さらに閲覧回数を増やす工夫が必要。
スクールバスの運行は正確かつ安全に行われている	・バスなび（アプリ）導入で到着前のメール配信により待ち時間の短縮ができるようになった。 ・バス以外にも出欠申請なびを使い、欠席・預かり保育などの申請が出来るようになり、保護者の手間と時間が省けるようになった。
課外教室が充実している	・課外教室の内容は充実しており多くの園児が喜んで通っている。1日で複数の教室に通う園児もいる。
なかよしホームは、保護者のニーズにこたえ、子育て支援の一環として利用しやすい内容となっている。	・長期休暇及び午前保育中の昼食については、お弁当と給食の選択制が導入され保護者のニーズに沿うことが出来ている。満三歳児も利用できることにより就労家庭の増加に伴い利用者は増えている。 ・チケットレスにすることで申込みがスムーズになった。

４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画に対して、教職員全体で共通理解し、自己評価し、取組み状況を通じて各人の課題を具体的に確認することができた。

５．今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
保育の質の向上	・正課授業の充実。 ・GrapeSEED ネイティブ講師によるイングリッシュタイム（英会話）が導入され充実した内容であった。今後さらにテーブルトークなどを行い英語教育に取り組んでいく。 ・職員会議では、ファシリテーションを取り入れて職員間の繋がりを深める。 ・研修に積極的に参加し、取り入れながら保育の発展と専門性の向上を目指す。 ・子育て相談員・ソーシャルワーク・幼児教育アドバイザーの育成など、幼児教育の専門性を高め、保護者の悩みやサポートに繋げていく。 ・学年補助教員及びクラス補助教員の有効的なサポートで職員全体の連携を図る。 ・満三歳児クラスでは、子どもの実態を踏まえカリキュラム内容を検討していく。
ホームページやコミュなびアプリの活用	・ホームページのリニューアルを行い、見やすく、こまめに更新し発信していく等、アピールの強化に努める。 ・出欠確認・スクールバス運行・預かり保育の申込みや、ペーパーレス化を進めるため園児情報などにも園児管理システム（アプリ）を活用していく。
預かり保育の充実	・幼児教育無償化に伴い、年々増加している預かり保育の利用者が更に多くなり、教職員の配置や保育室の確保が難しい現状に加え、就労家庭の保護者にとっては開所日増加の要望も出ている。園児の安全管理を第一に考えた運営対策が急務である。

６．学校関係者の評価

・主な行事については、新型コロナウィルス感染症の影響で従来の形での実施は出来なかったが、その中でも感染症対策を行い、春・秋の遠足・運動会・冬のカーニバル・発表会などの行事を工夫して行う事が出来て良かった。遠足ごっこや利晶の杜での茶の湯体験、移動動物園などを行い子どもたちに良い体験・経験が出来て良かった。

・正課授業では、発達段階を考慮しながら、園児の学ぶ意欲の向上に繋がるカリキュラムの作成を今後も期待している。

・職員全体が自己点検、自己評価を通じてそれぞれの具体的な課題を設け研修に励んでいる。子どもに多くの成功体験をさせて様々な事に挑戦する強い心を育てられるよう、伝統を継承しつつ、新しい保育にも向上心をもって取り組んでいる。

・幼児教育無償化により、保育の質の向上への期待と幼児期の教育に対する保護者の関心が高まっているので、園の特色を活かし、更なる保育の質の向上を望む。

・HP および SNS（LINE・Instagram）もさらに活用し、園の様子が分かるよう情報発信をして欲しい。

・預かり保育・課外教室の預かりなど、円滑に利用できるよう工夫を重ねていき、安全で安心な子育て支援となるように望む。